

どんぐりず

「アイデアの段階から磨いて、そのままアウトプットできるカッコイイものを作る…それを目指したい」

中学時代にアコースティックギターによる弾き語りユニットとして誕生したどんぐりず。メンバーは群馬県在住のチョモランマ（担当：変態毒キノコ）と森（担当：早口坊主）の2人。パンクやロック、ヘヴィメタやラテン、歌謡曲といった多彩なテイストに高純度の笑いのエッセンスをミックスした2作品『世界平和』（2015年）、『愛』（2018年）を経て、今年4月にシングル『jumbo』でデビュー。そして8月にリリースしたばかりの新曲『マインド魂』では、独特のユーモアはそのままにアシッドジャズやエレクトロニカ、ブラックミュージックにインスパイアされた楽曲世界を構築。2020年代の突破口を鮮やかにユニークに切り開く彼らがOASISに初登場です。

—最新アルバム『baobab』はこれまでの2作品『世界平和』『愛』と音の面で大きく変化していますね。特にこういう作品にしようというテーマはありましたか？

チョモランマ「うーん、テーマは特になく(笑)、『世界平和』を作ったのは高校生の時で、“CDを作ってみよう”という気持ちだけで作った作品です」。

森「まだ世の中を1ミリも知らなかった、クソガキだった頃の音楽です(笑)」。

チョモランマ「『愛』を作っている時は、僕らの中で“いろんなことができる＝カッコイイ”という感覚だったので、とにかくいろんなタイプの曲を作ってみよう。その頃は“群馬のバンドマンの間で話題になっている”ぐらいの規模感だったんですが、その後から東京でもライブをやるようになりました。『baobab』は2019年に作り始めて、今回は自分たちがカッコイイと思うものだけを作ってみようって。収録曲のうち、最初の頃に作った『powerful passion』は今聴いてもフレッシュ感が強いと思うし、今年6月にシングルとしてリリースした『nadja』は最後の方に作った曲。作っている間にも自分たちの中で変化はあって、自分たちが思うベストのカッコイイ音はどれだろうって探しながらやってきましたね」。

森「作り終えた時は“出し切った”感がすごくあって、この先もう何も出てこないんじゃないかって(笑)」。

チョモランマ「“カッコイイものを作ろう”と言いつつ、実際曲を作る時は“これは激しい感じに”とか、“これは静かなものにしよう”みたいにざっくりとしていて、歌詞ではこういうことを歌おうとかもまったくない状態で走り出していましたね」。

—お2人とも歌もラップもされますが、自分のパートの歌詞はそれぞれが書くんですか？

チョモランマ「トラックに関しては僕が作りこむことが多くて、その上に何を乗せてどういう曲の展開にしていくかは、おしゃべりしながら決めている感じです。歌詞を決める時もトラックをずつ

森
(担当：早口坊主)



チョモランマ
(担当：変態毒キノコ)

★オフィシャルサイト：<https://dongurizu.com> ★ツイッター：<https://twitter.com/dongurizu>

とループさせて、思いついたら鼻歌を歌ったりして。お互いその時点で共有しているので、どっちが考えたのかは曖昧ですね。ただ森の早口のパートに関しては、宿題というか森が家で考えてくることが多いです」。

—アルバム『baobab』を聴いているとソウルやR&Bの影響を色濃く感じます。お2人が特に好きなアーティストや影響を受けた音楽はどんなものがありますか？

森「お互いにブラックミュージックが好きなので、無意識ですけどその影響は大きいんでしょうね。ただ子供の頃からずっと憧れているみたいなのはなくて、好きなものもその時々で変わっています」。

チョモランマ「ジャズ、ファンク、ヒップホップ、R&B、ソウル…レゲエやダブも好きだし、結構幅広く聴きますね。ジャズは昔のものを聴くことが多いけど、R&Bとかソウルは今の作品からその人のルーツをたどっていく感じで。最近はおスカ・ジェロームの新しいアルバムをよく聴いています。UKのジャズシーンは結構好きかな。暗い音楽が好きなのでプーマ・ブルーあたりも好きですね。カッコイイです」。

森「僕はSminoですね。ラッパーでもあり歌も歌うし、トラックが超気持ちいいんですよ。日本人のラッパーだと5lackさんとCampanellaの2人に個人的に憧れています」。

チョモランマ「影響を受けるものはその時によって違うというか、“こういうテイストの曲を作ろう”というアイデアから、自分たちが聴いている音楽の中でカッコイイと思うエッセンスを見つけてきて、“じゃあこういうのを使ってみよう”という感じで作っていくことが多い。だから、特定の誰かを狙って音楽を作るとか、“武道館に立ちたい”みたいなのはそんなになくて(笑)」。

—さっきチョモランマさんが暗い音楽が好きと言われましたが、8月にリリースされた新曲『マインド魂』も暗いというかダークというか…

森「あれは暗いです(笑)」。

チョモランマ「暗くて重いです(笑)」。

—(笑)最初に聴いた時、ポータビリティを思い出しました。静けさ

と重さが心地よく同居している感じで。

森「音的にマッシュヴ・アタックとかそのあたりのUKの音楽から影響を受けているところはありますね」。

—この曲も特にテーマなどはなく？

森「もともとは、アッパーでみんなが踊れる曲にしようっていうテーマだったんですけど、チョモが最初に出した一音がすでにテーマから逸れちゃって(笑)」。

チョモランマ「暗い音楽が好きっていうところが露骨に出ちゃいました」。

—その暗い音楽が好きモードはしばらく続きそうですか？

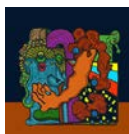
チョモランマ「そういう感じでもないです。楽曲制作に関して今目指しているのは、最初にイメージして作り始めた曲が、途中で“ちょっと違うぞ？”みたいになると、新しい部品をつけたりしていじくりまわした結果、最初にイメージしたものとはまったく違うものになっちゃうことがこれまでは多かったんですね。その良いところもあるんですけど、最初にイメージしたものがカッコイイものでありたいし、そうじゃないとただのオマージュになっちゃう。オリジナルになるためには最初のアイデアの段階から磨いていって、そのままアウトプットできるカッコイイものを作る。それを目指したいです」。

—これから聴ける新曲も楽しみです。最後に読者の皆さんにメッセージをお願いします。

チョモランマ「我々どんぐりずは、群馬県で元気に楽しく遊んで暮らしています！なので、皆さんもどうぞお元気で。ライブで会えたらうれしいです」。

森「ライブがもっとできるようになったら、速攻で西日本に向かいます！待っててください！」

Digital Single



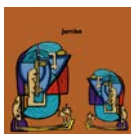
「マインド魂」
out now!!

Digital Single



「nadja」
out now!!

Digital Single



「jumbo」
out now!!

3rd Album



「baobab」
out now!!